

テレビ視聴環境と視聴態度に関する
マーケティングデータ
～テレビ視聴の意識と行動編～

朝日大学マーケティング研究所

調査概要

- 調査方法 Webアンケート
- 調査期間 2010年6月24日(木)～6月28日(月)
- 調査対象 首都圏在住の13歳～69歳の男女で、自宅にテレビがある人
- 有効回答 合計400名(均等割付)

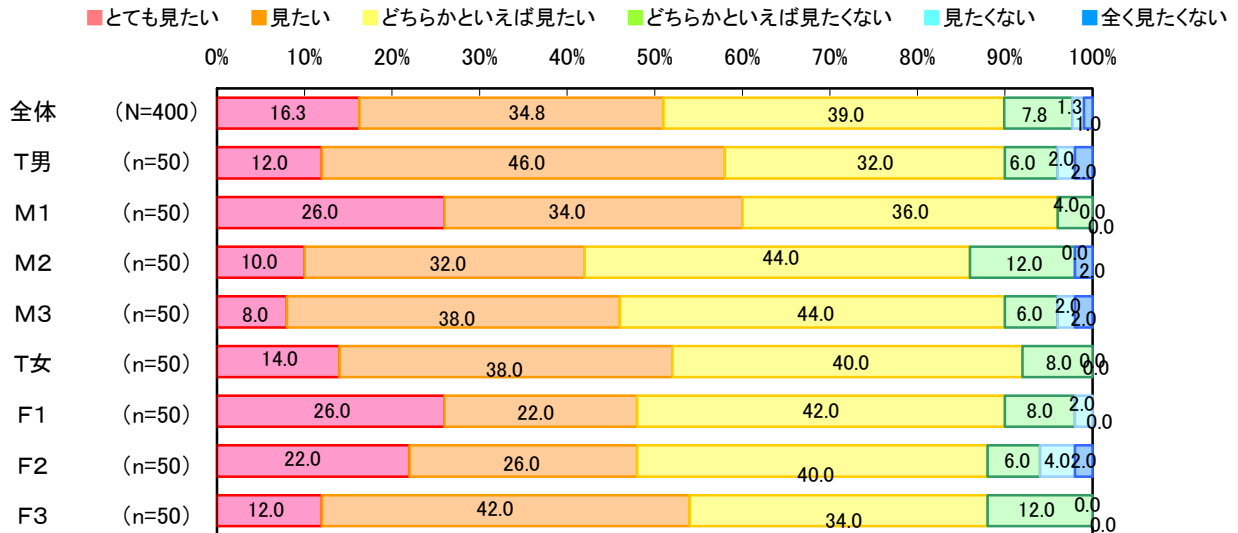
年代	男性	女性	合計
13～19歳	50名(T男)	50名(T女)	100名
20～34歳	50名(M1)	50名(F1)	100名
35～49歳	50名(M2)	50名(F2)	100名
50～69歳	50名(M3)	50名(F3)	100名
合計	200名	200名	400名

1. テレビ視聴状況

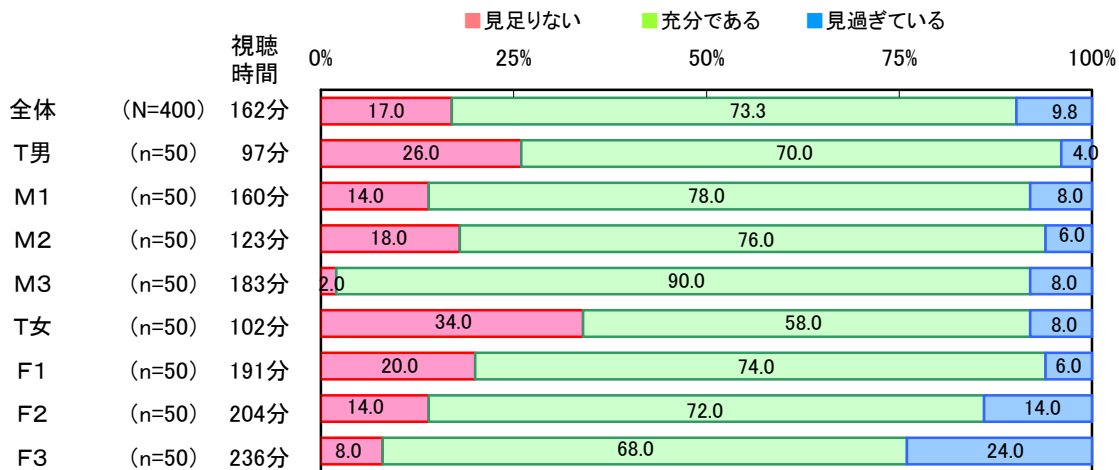
大多数の人はテレビ番組を「見たい」としており、テレビ視聴時間の短い若年層ほどテレビを「見足りない」と思っている

- テレビ番組を見たいと思っている(「とても見たい」+「見たい」+「どちらかといえば見たい」)割合は、どの年代でも約9割程度である。「とても見たい」に着目すると、M1・F1層が高く、M3・F3層が低いという傾向が見受けられる。
- 一日あたりのテレビ視聴時間は、全体平均で162分である。若年層ほど、視聴時間が短い傾向がある。
- T層は「見足りない」と回答する率が高い。
- 「見足りない」と回答したT層に着目すると、T層全体よりも、「テレビを見たい」と考えているが、全体と比べてT層そのものの「見たい度」が低く、テレビを「見足りない」とは思うが、テレビ番組そのものを「とても見たい」わけではないと判断できる。
- 「テレビ番組をどの程度見たいと思っているか」と「テレビ視聴時間の評価」は、相関関係はほぼなかった。

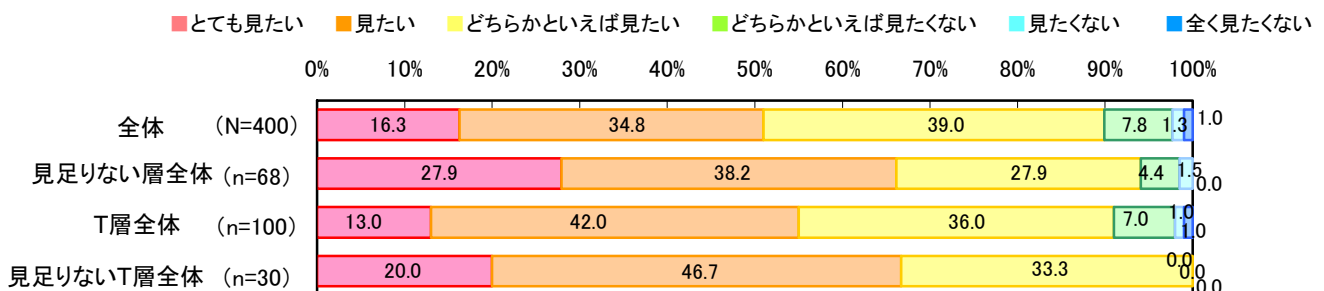
テレビ番組をどの程度見たいと思っているか



一日あたりのテレビ視聴時間と、その評価



「見足りない」と答えたT層全体に着目した「テレビ番組をどの程度見たいと思っているか」

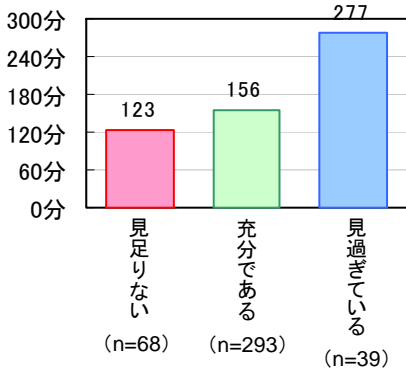


2. テレビ視聴の意識

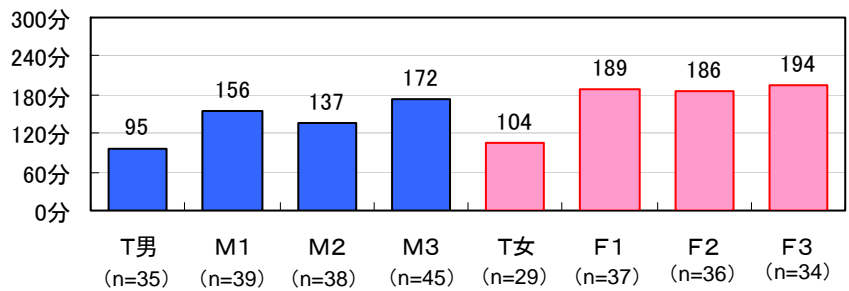
テレビ視聴時間が長い女性においても、一日約3時間テレビを見ていれば視聴時間としては「充分である」

- 一日あたりのテレビ視聴時間を、視聴時間の評価別に見ると、「充分である」と答えた人の平均は156分で、この値を属性別に見ていくと、最も多いF3層でも194分となっている。テレビを見る時間のある層でも、約3時間テレビを見れば「充分である」と感じるようだ。
- テレビ視聴の意識を見ると、「テレビを見る時間が合わない(忙しい)」はT層、とくにT女で、「あてはまる」(TOP1)が高い。
- 「自分の生活時間と見たいテレビ番組の時間が合わない」の「あてはまる」は、T女が高いほか、M2・F2も高い。
- 「見たいと思うテレビ番組が少ない」の「あてはまる」は、M2・F2で高い。全体の「あてはまる」も32.0%と高い。
- 「テレビより他の事を優先してしまう」の「あてはまる」は、M1・M3・F3が低い傾向がある。

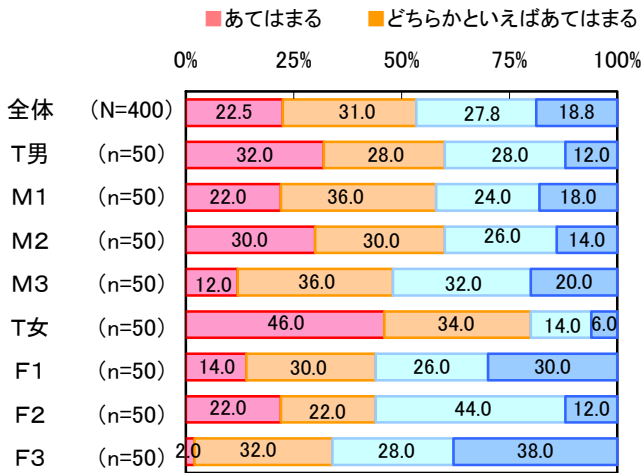
視聴時間の評価別の
一日あたりのテレビ視聴時間(平均)



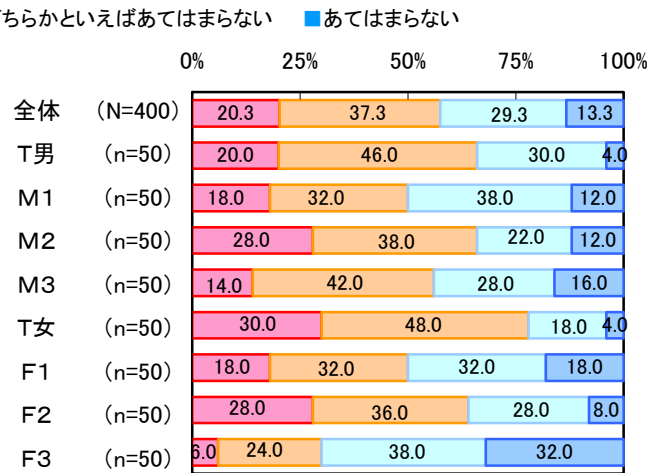
テレビ視聴時間が「充分である」とした回答者の
一日あたりのテレビ視聴時間(平均)



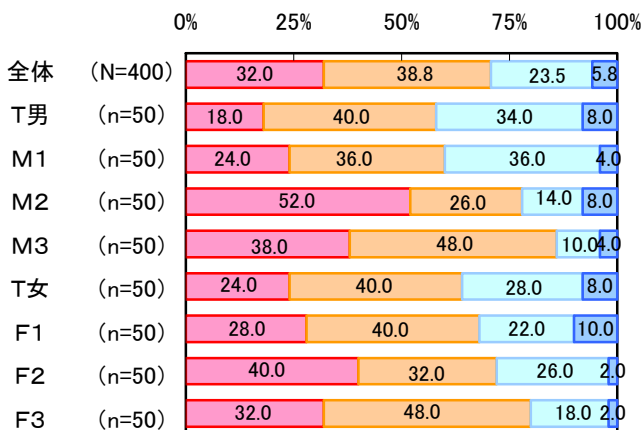
テレビを見る時間がない(忙しい)



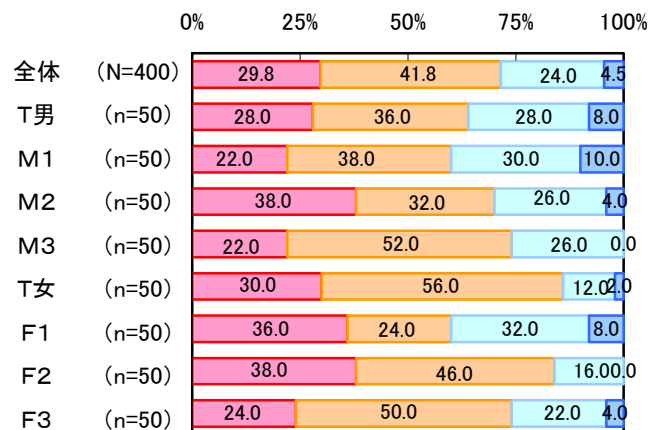
自分の生活時間と見たいテレビ番組の時間が合わない



見たいと思うテレビ番組が少ない



テレビより他の事を優先してしまう



3. テレビの優先順位

「一人で自宅にいて暇なときにしたいこと」で、「テレビ番組を見る」は「パソコンでインターネットをする」の次の位置付け

- 「一人で自宅にいて暇なときにしたいこと」は、「テレビ番組を見る」は「パソコンでインターネットをする」が二強の状態となっており、この二つの関係は性年代別では、T女とF3を除いて「パソコンでインターネットをする」が上位に来ている。
- 性年代別の特徴として、T男・M1といった若い男性の層では「ゲーム機やパソコン等でゲームをする」、T男・T女といった10代の層では「携帯電話でメール・通話する」、M3・F3といった50代以降の層では「新聞を読む」が、それぞれ上位に位置している。
- テレビ視聴時間の評価別に見ると、「見足りない」層では「テレビ番組を見る」が高く、「見過ぎている」層になると入れ替わる形で「パソコンでインターネットをする」が高くなる。
- 「見足りない」と答えたT層は、「テレビ番組を見る」が平均3.10ptと高い。また、「パソコンでインターネットをする」よりも「携帯電話でメール・通話する」が上位に来ている。

一人で自宅にいて暇なときにしたいこと

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N=400)	パソコンでインターネットをする 2.77pt	テレビ番組を見る 2.50pt	寝る 1.15pt	ゲーム機やパソコン等でゲームをする 1.07pt	本を読む 1.01pt
T男 (n=50)	ゲーム機やパソコン等でゲームをする 3.02pt	パソコンでインターネットをする 2.50pt	テレビ番組を見る 2.32pt	漫画を読む 1.12pt	携帯電話でメール・通話する 1.00pt
M1 (n=50)	パソコンでインターネットをする 2.94pt	テレビ番組を見る 2.74pt	ゲーム機やパソコン等でゲームをする 1.72pt	寝る 1.40pt	DVD・ビデオを見る 1.18pt
M2 (n=50)	パソコンでインターネットをする 2.92pt	テレビ番組を見る 2.46pt	寝る 1.48pt	本を読む 1.34pt	音楽を聴く・楽器を演奏する 1.04pt
M3 (n=50)	パソコンでインターネットをする 3.06pt	テレビ番組を見る 2.92pt	本を読む 1.66pt	新聞を読む 1.50pt	音楽を聴く・楽器を演奏する 0.94pt
T女 (n=50)	テレビ番組を見る 2.38pt	パソコンでインターネットをする 2.20pt	音楽を聴く・楽器を演奏する 1.52pt	寝る 1.36pt	携帯電話でメール・通話する 1.22pt
F1 (n=50)	パソコンでインターネットをする 2.80pt	テレビ番組を見る 2.14pt	寝る 1.52pt	家事をする 1.00pt	DVD・ビデオを見る 0.80pt
F2 (n=50)	パソコンでインターネットをする 3.10pt	テレビ番組を見る 2.10pt	DVD・ビデオを見る 1.50pt	本を読む 1.24pt	寝る 1.24pt
F3 (n=50)	テレビ番組を見る 2.94pt	パソコンでインターネットをする 2.66pt	本を読む 1.50pt	新聞を読む 1.18pt	DVD・ビデオを見る 0.88pt
見足りない (n=68)	テレビ番組を見る 3.01pt	パソコンでインターネットをする 1.82pt	寝る 1.53pt	DVD・ビデオを見る 1.16pt	ゲーム機やパソコン等でゲームをする 1.15pt
充分である (n=293)	パソコンでインターネットをする 2.88pt	テレビ番組を見る 2.43pt	ゲーム機やパソコン等でゲームをする 1.13pt	寝る 1.10pt	本を読む 1.06pt
見過ぎている (n=39)	パソコンでインターネットをする 3.64pt	テレビ番組を見る 2.15pt	音楽を聴く・楽器を演奏する 1.10pt	本を読む 1.05pt	DVD・ビデオを見る 0.95pt
見足りないT層 (n=30)	テレビ番組を見る 3.10pt	ゲーム機やパソコン等でゲームをする 2.03pt	携帯電話でメール・通話する 1.43pt	パソコンでインターネットをする 1.40pt	DVD・ビデオを見る 1.20pt

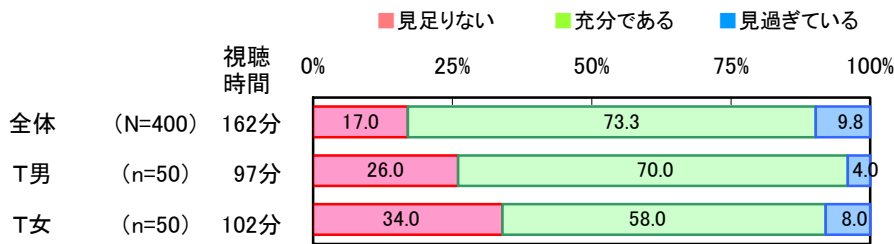
※下記の19項目の中から、5位まで順位付けを行い、1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点の重みを付けて平均値を出した。

テレビ番組を見る、DVD・ビデオを見る、ゲーム機やパソコン等でゲームをする、携帯電話でメール・通話する、携帯電話でインターネットをする、パソコンでインターネットをする、ラジオを聴く、音楽を聴く・楽器を演奏する、本を読む、雑誌を読む、漫画を読む、新聞を読む、創作活動をする(絵・詩など)、家事をする、仕事をする、柔軟体操・運動をする、入浴する、寝る

データの総括

結果① テレビ視聴時間の短い若年層ほどテレビを「見足りない」と思っている

一日あたりのテレビ視聴時間と、その評価(抜粋)

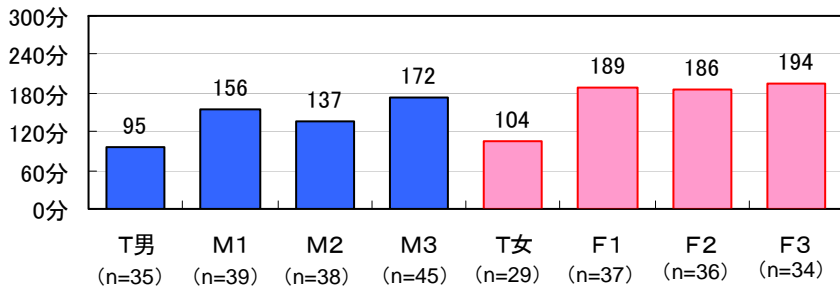


どの性年代においても、大多数がテレビ番組を見たいと思っている。一日あたりの視聴時間が短いT男・T女は、テレビを「見足りない」とする割合が高い。

「見足りない」と答えた割合の多いT層だが、とくにテレビ番組を「とても見たい」と答える割合が高いわけではなく、単純にテレビを見る時間がないようだ。

結果② 一日約3時間テレビを見ていれば視聴時間としては「充分である」

テレビ視聴時間が「充分である」とした回答者の一日あたりのテレビ視聴時間(平均)



テレビ視聴時間が「充分である」と評価した回答者の平均テレビ視聴時間は、156分であり、F3層に限っても194分である。約3時間テレビを見れば充分と判断される。

また「テレビを見る時間がない」T層、「見たいと思うテレビ番組が少ない」M2層・F2層、といった形で、テレビ視聴意識はそれぞれの年代ごとに特徴がある。

結果③ 暇つぶしとして、テレビとインターネットは二強

一人で自宅にいて暇なときにしたいこと

全体(N=400)	
1位	パソコンでインターネットをする 2.77pt
2位	テレビ番組を見る 2.50pt
3位	寝る 1.15pt
4位	ゲーム機やパソコン等でゲームをする 1.07pt
5位	本を読む 1.01pt

※集計方法の詳細は「3. テレビの優先順位」を参照

自宅で一人でいて暇なときは、インターネットとテレビを選ぶ人が多い。基本的に「ながら」で同時にできるという点も大きいと考えられる。

T男層・M1層の「ゲーム」、M3・F3層の「新聞」など、属性ごとの差が大きい。

テレビを「見足りない人」は、暇なときのテレビの優先順位は高いが、実際は、忙しくてテレビを見られない。テレビを「見過ぎている人」は、テレビの優先順位は高くないが、実際はテレビを見てしまっているという様子が伺える。



結果から推測される仮説

■テレビ離れが叫ばれる中、特に、ティーン層は、その度合いが強いとされる。確かに今回の調査でも、ティーン層の1日あたりのテレビ視聴時間は他の層に比べて相当短く、テレビを見る時間がなく忙しいとする率も高い。行動力旺盛で、興味が拡散し始めるティーン層は、携帯、ゲーム、パソコンなどテレビ以外にもやりたいことがたくさんあって、「時間が足りない」。ただし、これをもって「若者はテレビ離れしている」というのは早計かもしれない。テレビ視聴の意識まで掘り下げてみると、ティーン層の「テレビを見足りない」とする意識は高く、「テレビを見たいという欲求」も決して低くはない。こうした意識を考えると、テレビ視聴にマイナスの要素は確かにあるが、年齢とともにゲームなどの優先順位が低下してくれば、テレビ視聴時間も長くなっていくと思われる。

■テレビ以外のメディアに幼少期から接点を持っている世代が台頭してくると、「テレビを見たい」という視聴意識は変わらないとしても、視聴環境、視聴パターンは変化してくると考えられる。パソコンをしながら、携帯メールをしながら、といった「ながら」視聴への対応は必須であろう。また、「ながら」視聴時の、テレビとパソコン、携帯電話の主従関係の逆転も意識したテレビ番組作りも要求される。

トピックスリサーチ

テレビ視聴環境と視聴態度に関する
マーケティングデータ
～テレビ視聴の意識と行動編～

発行日 2010年 7月 30日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
朝日丸の内ビル2F
TEL : 052-961-4576

お問い合わせ apost@dance.ocn.ne.jp